SHOW-HEYシネマルーム

★★★

ロンドン、人生はじめます

2017年／イギリス映画
配給：シンカ、STAR CHANNEL MOVIES／102分

2018（平成30）年3月27日鑑賞　ギャガ試写室

Data

監督：ジョエル・ホプキンス
脚本：ロバート・フェスティンガー
出演：ダイアン・キートン／ブレンダン・グリーソン／レスリー・マンヴィル／ジェイソン・ワトキンス／ジェームズ・ノートン／アリステア・ペトリー／フィル・デイヴィス

■□■ショートコメント■□■

◆公式ホームページによれば、本作の「イントロダクション」の冒頭は次の通りだ。

『ニューヨーク 眺めのいい部屋売ります』の
ダイアン・キートン最新作。
お金も、暮らしも、恋も、自分らしく―、
明日が待ちどおしくなる実話から生まれた物語。

◆まずは、ロンドン中心部の広大な公園ハムステッド・ヒースとお洒落なショップなどが並ぶハムステッド・ハイ・ストリートを中心とした美しい風景に注目！もっとも、ハムステッドの高級マンションに夫の死亡後、今は一人で暮らす未亡人のエミリー（ダイアン・キートン）は夫亡きあと発覚した浮気や借金のこと、減っていく貯金のことなどで大変そうだ。また、アメリカ人のエミリーに対して、同じマンションに住む親切なロンドンっ子のおばさんたちは、ある意味おせっかいが過ぎるから、うっとうしい。税務処理と再婚のお相手を兼ねた男の世話など、いらざるおせっかいの最たるものだ。そんな未亡人エミリー役をダイアン・キートンがユーモアを含めてイキイキと！

◆他方の主人公は、かつて橋下徹前大阪市長のかけ声のおかげで今では中之島公園から一掃された「青テントの男たち」と同じような広大な公園の一角に小屋を建てて悠々自適の生活をしている男ドナルド（ブレンダン・グリーソン）。彼が図らずもその場所の所有権を手に入れ、一夜にして資産家になった男らしいが、それは法的には取得時効による土地

の所有権の取得？しかし、そんなバカな！少なくとも所有の意思をもって占有していないことが明らかなドナルドについて、日本ではそんなことはありえないが・・・。

◆エミリーとドナルドの出会いと反発、そしていつの間にか醸成されていく二人の信頼と愛情（？）のストーリーはある意味で微笑ましい。また、それを署名好き（？）、住民運動好き（？）、デモ好き（？）なロンドンっ子たちが応援する風景も、たしかに一種の清涼剤になっている。しかし、本作のクライマックスとなる、土地の占有による取得時効の成否を巡る法廷シーンのバカバカしさにはアングリ。『否定と肯定』（１６年）ではその本格的な法廷モノとしての出来に感服したが、本作は司法研修所の教材としてはナンセンスだ。もっとも、反面教師としては役立つかも・・・。

◆ドナルドが公園内の敷地の所有権をどれくらいの範囲で手にしたのかはわからないが、その結果エミリーとドナルドの価値観が対立し、別れてしまう結末はある意味当然で、私には納得感がある。しかも、マンションを売却して郊外に移ったエミリーは、今ラジオのニュースでドナルドが土地を売り若い女と二人暮らしを始めたと聞いたから、エミリーもそれに納得。しかし、そんな一般受けしない結末でホントにいいの？そう思っていると、やっぱり本作ラストにはあっと驚きつつ、一般的には誰もがスッキリする、ある結末に！まあ、映画としてはこれでいいが、これがホントに「実話に基づく物語」なの・・・？

２０１８（平成３０年）年3月３０日記